

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス東金教室			
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～	令和7年 3月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～	令和7年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団療育だけでなく個別支援ができるスペースの確保	個々の様子を見て活動内容を工夫している。 運動遊び以外に制作活動や、学習支援を行っている。	職員のスキル向上を図り、個々の特性の理解を高め、適した支援を行う。
2	保護者の不安を聞き、できる限りニーズに寄り添えるよう取り組んでいる。	その都度の保護者の不安を聞き、保育所・学校や他事業所とそ の子に合った支援の共通認識ができるように連携を取ってい る。	・学校に放デイの役割を認識して連携が取りやすくなるよう に連絡会や協議会などに参加している。 ・役所や保育所等に教室の案内を配置させてもらい、児童発 達支援の認知度を高めていく。
3	・運動療育を軸に日々の活動の中で切り替えや他児との関わり 方を支援している。 ・室内での活動以外にも公園や他教室に行き、いつも同じ環境 にならないよう取り組んでいる。	・刺激の排除ではなく、困難な状況になってしまった時に、自 分で対処できる力を養えるよう支援を行っている。 ・当教室には運動遊具のある他教室に出向き運動支援を 行ったり、公園での戸外活動やリトミック等同じ職員、 同じ環境、同じ活動にならないように工夫している。	パニックや不穏になってしまっても、その時の児童の感情を 受け入れ自分の力で対処できるような支援ができるような職 員のスキル向上。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援ができる環境はあるが、支援が追いついていない	個別支援を行うには集団指導中に配置移動が必要なため、職員の確保が必要	職員の確保をに取り組み、個別支援ができる職員のスキル向上を図る
2	高学年の利用者が増え活動時間と送迎時間が重なってしまい、一時的に人員が不足してしまう。	職員の確保が難しい。	人員不足解消はすぐには解消しないので、その中でできることを行っていく。
3	児童発達支援の認知が低い利用者者が少なく、やりたい支援が行えない（児発）	児童発達支援の利用者が少ない。	行政や保育所等と連携を行い認知度を高めていく。